

情勢報告（令和6年7月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

省力機器導入や有機栽培化について情報共有しました

～大砂子柚子生産組合研修会～



研修会の様子

6月27日、大豊町の大砂子柚子生産組合が研修会を開催し、生産者12名が参加しました。

普及所からは、栽培管理や葉面積指数推定アプリ、電動せん定バサミの操作方法、無農薬ユズの有機栽培化について説明しました。

電動せん定バサミを試用した生産者からは「軽くて扱いやすい、大枝の運搬時に細かく切断する場面で役立ちそう」などの声が上がりました。また有機栽培化については、区分搾汁や搾汁単価などの出口から取組を考慮ことや、除草剤を使用する農家への対応策などについて意見が交わされました。

今後も普及所は生産者や関係機関と連携して、栽培指導や省力機器導入のほか、有機栽培化への取組についても推進していきます。

神戸の料理教室「魚果菜（ととかな）塾」に参加してきました！



大学生が開発した米ナスとパプリカの料理

JA高知県れいほく園芸部と普及所は7月5日に神戸で開催された中央市場の料理教室「魚果菜（ととかな）塾」に参加し、嶺北の野菜の魅力を伝えました。

イベントでは、れいほく園芸部長・副部長が栽培管理や天敵昆虫に関して説明し、参加者からは「天敵昆虫を使うことで農薬の使用量を減らすのは素晴らしい」「カラーピーマンとパプリカはどう違うの？」などの声がありました。

また武庫川女子大学食物栄養科学部の学生が開発した米ナス・パプリカを使った料理が参加者に振舞われました。参加者からは「おいしい」「斬新なレシピで目から鱗だった」などの声がありました。

今後も普及所はJAや園芸部と協力して、販売促進活動の支援を行っていきます。

より安全安心な農業を目指して！

～GAP環境点検～



取組内容を確認中！

7月2、8、9、10日、JA高知県れいほく園芸部はGAP環境点検を開催し、部会役員、JA、町村職員、普及所職員合わせて17名が参加しました。

園芸部部会員58名のは場を分担して巡回し、国際水準ガイドラインに対応したGAPの点検項目に基づき、各は場の状況を確認しました。普及所は、監査員であるJA職員の支援を行いました。は場・調製場所の整理整頓や農作業安全の取組など、生産者自らがGAPを意識した営農を行っていました。一部農家では、バンカー植物の花びらが収穫物に混入する恐れがあり対策が必要等の指摘事項もあったため、改善を促し、後日実施状況を確認することになりました。

今後も普及所は、JAと連携してよりよい農業の実践に向けて支援していきます。

適切な穂肥でより良い酒米生産を！
～土佐酒造酒米生産者組合現地検討会～



穂肥の量と時期を検討中

7月11日、土佐酒造酒米生産者組合は本山町と土佐町で現地検討会を開催し、生産者9名、土佐酒造1名、普及所1名が参加しました。

普及所はこれまでの生育概況とカメムシ類等の病虫害防除を説明しました。また各生産者のほ場をまわり、水稻の葉色と幼穂長を調査した後、その結果をもとに参加者全員で穂肥の量やその時期、今後の栽培管理について検討しました。

生産者は、今年特に発生が多いカメムシ類への関心が高く、使用する農薬について活発に意見交換がされていました。

普及所は今後も巡回や現地検討会を通して、高品質・高収量の酒米生産を支援していきます。